

2019年1月27日（日）

主 題：「あなたに見せたいもの」

—愛の実践—

テキスト：ヤコブの手紙2章18-20節

はじめに

- ・私たちはここ数回にわたり、「信仰」と「行い」について、学んできました。ヤコブは「ほんとうの信仰」について語り、次に「死んだ信仰」について語りました。
- ・なぜ、このようなテーマが出てきたかについては、前にお語りしましたので、今日は省略させていただきます。ただ言えることは、当時「死んだ信仰」というものがあつたことでした。
- ・しかも問題は、その行いが伴わない「死んだ信仰」の保持者たちが、自分たちには信仰があると主張していたことでした。ヤコブは「行い」がない信仰を主張する人たちに、席を譲ることはできませんでした。これは今の時代にも言えることです。
- ・「自分は神を信じ、教会に通い、クリスチャンです。」と言う人はいます。それは立派なことで幸いなことですが、もし「行い」が伴わないとするならば、ヤコブは何というのでしょうか。
- ・ヤコブはイエスの実の兄弟であり、イエスの姿を最もよく知っていた人でしょう。彼がイエスをメシアとして真に受け入れたのは、十字架、復活、昇天、そして聖霊降臨後でした。まさしく、自分の兄弟イエスこそ神が遣わされたメシアであると、疑いなく信じました。そして彼の人生は大きく変えられました。
- ・その頃、エルサレム教会の信徒数は数万人であったと言われますが、ヤコブはそのエルサレム教会の総責任を担っていました。さらにローマ帝国全域に散らばっていた同胞ユダヤ主義クリスチャンに対し、ユダヤ教の長い伝統に支配された形式的な信仰を守るのではなく、愛を実践する信仰を説いたのでした。
- ・ヤコブは、愛から出る信仰こそ、「行い」が伴う「ほんとうの信仰」であることを強調しました。そこで、私たちはヤコブが、「あなたに見せたいもの」とは何であるか、学んでみましょう。

大切なポイント

まず、みことばをお読みしましょう。

2:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

2:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。

2:20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思います

か。

- 2つのポイントから考えてみます。

1. 信仰を見せてください

1) 二つの信仰

- ここの箇所を要約すると、次のようです。

二人の人が共に、自分には信仰があると主張しています。ところが、片方の人には行いが無いので、信仰があることを証明することができません。信仰があるかどうかは、外側からは見えませんし、触ることもできないからです。

- そこで、もう片方の人がこう言います。

2:18c 「私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

- 信仰と行いとは切り離すことができません。信仰により、恵みによって救われるというのは事実です。もし行いが伴っていないなら、それは救いに至る信仰とはなっていないのです。

- 次にヤコブは、「神はおひとりだ」と信じるだけでは、十分とは言えないと言いました。ユダヤ人にとって、神はお一人であるという告白は、非常に重要なことです。昔も今も「シエマー、イスラエル」（イスラエルよ、聞きなさい）と

唱えています。申命記

6:4 聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。

彼らは今も、「主は私たちの神。主はただひとりである。」と唱えています。

- ヤコブは、悪霊どもも「神はお一人だ」と信じて、身震いしていると言います。

新約聖書マルコの福音書は、次のように記しています。

1:23 すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、叫んで言った。

1:24 「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」

つまり、いくら「神はお一人だ」と信じていても、行いが無いなら、それはむなしい信仰（人を救いに至らせることのない信仰）であると、ヤコブは説きました。

2) むなしい信仰

2:20 ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いませんか。

- 信仰は実を結ばせるものです。マタイの福音書

7:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。

7:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。

- ヨハネ福音書15章でイエスは、たとえ話しを用いてキリスト者は実を結ぶものであると教えられました。

15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

ですから、ぶどうの木につながれるならば、実を結ぶことは自然なことです。

- ここで少し整理してみましょう。信仰は目に見えません。しかし信仰は実を結ばせます。人は、その実を見ることができるのです。ヤコブの主張は、実のない信仰を見せてほしいと言いました。これがヤコブが求めたことでした。
- ではここで、信仰は実を結ばせることについて考えてみましょう。

2. 愛を実践する信仰

- 繰り返しますが、ヤコブは、信仰は「行い」を伴うものであると説いています。信仰によって結ばれた実を、「あなたがたに見せたい」と言いました。それは決して、彼が背伸びして言った言葉はありませんでした。いいえ。信仰こそ実を結ばせることができるものです。では、どうすれば実を結ばせる信仰を持つことができるのでしょうか。

1) イエス・キリストにあって

- 第一に、イエスを自分の救い主であると信じることから始まります。自分は本当に罪がある存在であることを認めることです。そしてキリストの十字架の贖いによって、罪を赦していただくことです。それは神の御霊のわざです。
- 神は、ひとり子をお与えになったほどに、私たち罪人を愛してくださいました。私たちは神の愛をいただいて、人を愛することができるようになります。私たちにとって大切なのは、神学や教義ではありません。キリストの愛の実践です。
- それはヤコブの時代も、今の時代もまったく同じです。世界各地での紛争も、私たちの身近に起こる様々な犯罪も、すべては愛の欠如からです。キリストの救いに与ったキリスト者は、愛の実践という「行い」が伴ってくるものです。ところで、一番はじめのキリスト教会は、どんな状態であったのでしょうか。

2) 世界で初めのエルサレム教会 使徒の働き 2章

2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。

2:44 信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。

2:45 そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。

2:46 そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。

① まず、特徴をあげてみましょう。

4点です。共有、分配、宮に集まった、パン裂き（聖餐式）、

そして主様も祝福をもって応答くださいました！

- これらの特徴は、彼らの「行い」から来たものではないことは明らかです。聖書はこの出来事の前に起こったことを、次のように記録しています。

② ペテロは次のように言いました。

2:36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

- 人々の反応はどうであったでしょうか。

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言った。

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

- そして、使徒の働きが次のように記録しています。

2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。

- つまり、彼らが、いっさいの物を共有にしたこと。彼らは必要に応じて物資を分配していたこと。彼らは宮に集まり（礼拝）したいこと。彼らはパンを裂いていたこと。これらすべては、彼らの「行い」によるものではありませんでした。いいえ、自然に現れた「行い」でした。
- ガリラヤ湖畔の無学な一漁師ペテロの言葉（メッセージ）に、人々の心は刺されました。そして「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」（2:37）と言いました。神の御霊が彼らの心を刺したのでした。そして人々はペテロの言葉を受け入れました。
- すなわち、彼らはペテロの言葉に心刺され、メッセージを受け入れました。それが信仰でした。彼らは神にあって新しく生まれた人々でした。その新しく生まれた人々が、愛の奉仕（行い）をしました。
- ヤコブが、ユダヤ主義者たちに「見せたいもの」とは、この信仰によって生まれた聖徒たちの、すばらしい「行い」でありました。

3) 愛を実践するキリスト信仰

『例話』 2019年1月号『宣教の声』の「ファミリー孤児院」

- 広大な国ロシアの北部（北極圏近く）では、主に忠実に仕えているイゴール&リドミラ・シシュコウ（Igor & Ljudmila Schischkow）伝道師夫妻が、長年尊い働きを続けています。彼らには2人の子どもがいますが、その他に、恵まれない環境下にある子どもたちを引き受けています。そのため自宅を「ファミリー孤児院」として開放し、我が子のように育てています。

- ・シシュコウ家のファミリー孤児院には、親が子どもの教育を放棄した子どもたちが生活を共にしています。親の大多数は麻薬、アルコール依存、刑事事件を繰り返し起こしています。あるいは、消息不明の親もいて連絡が取れないケースもあります。普通、こういう子どもたちは孤児院に引き取られますが、シシュコウ家のファミリー孤児院にも引き取られています。
 - ・ここ数年間で、シシュコウ家は13人の子どもたちを迎えました。そのうち8人はすでに成人し、ファミリー孤児院から離れました。現在は5人の子どもたち（10歳から16歳まで）が、シシュコウ夫妻と生活しています。
 - ・私が感動を覚えたことは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」（マタイ19・18）という神の戒めを、文字どおり実践していることです。聖書の隣人愛を説くことはできますが、「あなたも行って同じようにしなさい。」（ルカ10・37）という、イエスのことばのように実践することは容易ではありません。子どもたちはシシュコウ夫妻を通し、神の愛を体験する恵まれた日々を送っています。
 - ・他に、シシュコウ夫妻は孤児たちを連れて、老人施設を慰問しています。老人ホーム施設長は、「シシュコウ夫妻が孤児たちを連れて慰問してくれることは、とても良いことである。彼らは讚美歌を歌い、詩を朗読し、聖句を読み励ましてくれる。」と語っています。
 - ・また、シシュコウ夫妻は市の身障者施設も慰問しています。障害者たちは、孤児たちが暗い背景があるにもかかわらず、シシュコウ家のファミリー孤児院で愛され、すくすくと育っている姿に感動していました。また子どもたちの証しや讚美は、彼らを励ましていました。中には頬に涙を浮かべる人たちもいました。
 - ・シシュコウ家の奉仕活動は、それで終わってはいません。彼らは刑務所を訪ね、犯罪者たちに生ける神の証を語りつづけていました。親を失った子どもたちが天の父に出会い、真の居場所が与えられた証しは囚人たちに励ましを与えていました。彼らは定期的に刑務所訪問をしています。伝道集会も開いていました。
 - ・彼らは市当局に交渉し、すこし大きい部屋を借用していました。市当局から改装許可を得て、壁にはキリスト教絵画をかかげ、聖句を貼っていました。町の住民は新しいことで、興味心から人々が集まっていました。このようにして、神のみことばの種が蒔かれています。彼らの尊い働きは決して背伸びではありません。みことばに従順であり、できることを行っています。信仰から出ている尊い奉仕であります。私は脱帽します。
- ・ヤコブがユダヤ主義クリスチャンたちに「見せたかった信仰」とは、律法によるものではありませんでした。イエス・キリストへの信仰の結果、自然に現れた「愛の行い」（奉仕）でした。ヤコブ自らも「見せることができる信仰者」であったと思います。
 - ・いかがでしょうか。ここに生きた信仰を見ることができます。イエス・キリストへの信仰には、律法ではありません。尊い「愛の行い」（奉仕、福祉、慈善など）が伴う生きた信仰です。
 - ・皆さん、どうぞ誤解しないでいただきたいのです。私たちは、シシュコウ夫妻と、またヤコブと同じことを行いなさい、と言っているのではありません。それは信仰を持った結

果、「愛の行い」として生まれたことであります。

- ・ 私たちは彼らと同じようことは、できないかも知れません。しかし私たちは同じ神を信じる信仰者ではありませんか。神はあなたという尊い器をとおして、「見せたいものがある」と、言っておられると信じます。
- ・ 私たちは神に愛され神の子とされた者です。そして、神が私たちを用いて、何かを現したい（主の栄光）と願っておられます。なんという幸いではありませんか。私たちすばらしい神とともに、歩んでゆこうではありませんか。

ま と め

主 題：「あなたに見せたいもの」

—愛の実践—

- ・ 今日、私たちは神の御声を聞きました。そこで、私は今日の説教を次の聖句でまとめたいと思います。ヤコブの手紙
1:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行ないによって祝福されます。

* God bless you!